



メデイカルネットワーク

発行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久2-1-10
 電話03-3810-1111 FAX03-3894-0282 <http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html>

2014

No. 20

November

第24回城東地区医療連携フォーラム開催される



内科

准教授 渡辺 尚彦

第24回城東地区医療連携フォーラムは「高血圧」をテーマに、平成26年7月12日にホテルラングウッドで開催されました。本邦の高血圧患者数は、約4300万人と推定されており、全心血管病、脳卒中、心筋梗塞、慢性腎臓病などの危険因子とされています。日常診療で遭遇する頻度が高い疾患だけに、多くの方々にご参加を頂き、お蔭様で盛会裏に終えることができました。

フォーラム前半は、足立区医師会理事の阿部聡先生に座長をして頂き、私が「高血圧と睡眠」というテーマでお話しさせていただきました。高血圧患者には少なからず睡眠障害が認められ、逆に睡眠障害から血圧上昇をもたらすこと、また、近年知られるようになりました睡眠時無呼吸症候群と高血圧の関わりについてもお話しさせていただきました。

後半は、足立区医師会副会長の天沼満先生と同医師会理事の有野亨先生に座長をして頂き、「高血圧性多臓器障害とその包括的管理」というテーマで日頃、高血圧診療に携わっておられる6人の先生方でパネルディスカッションを行いました。天野亨先生（足立区）は本年度改定されました高血圧ガイドライン改訂のポイントについて、柴田興一先生（当センター内科）は脳卒中、中岡隆先生（当センター内科）は心血管障害、小川哲也先生（当センター内科）は慢性腎臓病、高橋宏之先生（当センター救急医療科）は救急搬送される心血管障害患者、天沼満先生（足立区）には足立区医師会で行った高血圧アンケートについてお話を頂きました。パネリストの先生方から、それぞれのお立場で、地域での現状や今後向かうべき方向性についてのお考えを述べて頂き、最後に会場にご参加いただいた方も含めて総合討論を行いました。大勢の方に参加していただき非

常に有意義な討論が行われましたので、参加された方も「高血圧の多臓器障害をいかに包括的管理」をすべきかご理解頂けたのではないかと思います。

私は、東医療センター内科と当センター日暮里クリニック内科・スポーツ健康学診療科で、高血圧専門外来を担当していますが、降圧薬を3剤以上用いても血圧が140/90mmHg未満に達しない治療抵抗性高血圧遭遇することが多々ございます。この様な症例は、単に降圧薬を増やすだけではなく減塩療法を併用することによって、降圧が得られる場合があります。減塩によって高血圧の臓器障害がある程度抑制されるのも事実です。高血圧治療も糖尿病と同様に、薬剤師による服薬指導や栄養士や看護師による減塩やカロリー制限などの食事指導や運動指導などチーム医療が重要と考えられます。高血圧患者の数は非常に多いのですが、城東地区の高血圧専門医の数は多くありません。しかし、今回のフォーラムが契機となって、具体的な高血圧の地域連携がより活発となり、高血圧に関しても地域を包括した治療やケアの相互システムが構築されるならば、地域住民に対する健康増進に大いに寄与すると考えられます。そうなりましたら、この企画に参画した一人として大変嬉しいことです。最後に、この場をお借り致しまして、今回のフォーラムの準備・運営に参画していただいた関係の方々に厚く御礼申し上げます。



日暮里クリニック女性専門外来紹介



性差医療部

准教授 片井みゆき

私は東医療センター日暮里クリニックで女性専門外来と内分泌代謝内科を担当しております。私達の所属である「性差医療部」という名に馴染みがない方もいらっしゃるかもしれませんが。性差医療Gender Medicineは疾患の背景にある男女差（性差）を考慮し診断や治療にあたるという新しい概念で、1990年代後半から日本にも導入されました。治験には妊娠可能な年代の女性を組み込めないことから女性におけるデータが不足している背景もあり、まずは女性における性差医療を「女性専門外来」として展開しております。女性専門外来は全国に数百か所ありますが、女子医大東医療センターは日本で初めて「性差医療部」を立ち上げ、常勤医3名・非常勤医9名の計12名体制で内科、婦人科、精神科、耳鼻科、ペインクリニックなど各分野の女性医師が連携し、女性のさまざまな愁訴に対し診療にあたっています。

女性では月経周期や更年期に伴いさまざまな症状が現れますが、大学病院として、愁訴の背景に器質的疾

患が隠れていないかの鑑別診断を重視しております。診断や治療に難渋している女性がいらしたら是非ご紹介下さい。診断と治療方針を決定し、ご希望に応じて地域の病院やクリニックへお戻し致します。

常勤医は内科医3人で、女性に多い症状全般の対応と併せ、さらに私が甲状腺疾患などの内分泌代謝内科外来、佐藤真理子医師が女性高血圧外来、近藤奈々絵医師が微小血管狭心症外来を担当しております。次号以降で、これらの特殊外来についての詳細をご紹介させていただきます。どうか宜しくお願い致します。



前列向かって左から近藤・片井・佐藤医師
後列左から柴田看護師主任、渡辺・兼平看護師、大山・恩田看護助手

当科では、指尖部切断の再接着術を積極的に行っています



形成外科

講師 伊東 大

今回、形成外科の一分野である切断指再接着、特に指尖部の再接着について現状を報告させていただきます。手術用顕微鏡下において、径の小さい血管を吻合するマイクロサージャリーの技術の向上に伴い、切断指再接着は急速に普及しました。一方、末梢血管系に関する基礎研究も、近年飛躍的に発展し、これまで困難とされてきたDIP関節（第一関節）以遠の指尖部の再接着が見直されています。しかし、指尖部の再接着では術後の血行動態が爪の再生・指腹の萎縮などの整容面や、知覚回復・疼痛・冷感などの機能面に与える影響がきわめて大きく、また指尖部は複雑な組織損傷を直接受けやすいため、超微細血管吻合後の術後成績は必ずし

も良好とはいえません。手術の成功率（生着率）も施設間での格差（60%～90%）があります。昨年（2013年）の当科における指尖部再接着症例は9症例11指で、生着率は91%でした。

一般に、再接着術の必要性は、切断レベルが中枢になるほど高く、これまで機能的・整容的予後から考えて、①母指切断②多数指切断③小児、未婚女性、特殊職業人などが再接着術の絶対適応とする考え方が受け入れられてきました。現在再接着術における手術適応については、むしろ絶対的な適応・非適応はなく、個々の医師や施設によりきわめて流動的に考えられています。当科では、患者さんの精神面や社会的状況を配慮した上で、御希望があった場合は積極的に再接着術を試みています。また、再接着術が不可能な場合や不成功例では、より整容面に考慮した指尖部の再建も行っていますので、お気軽に御相談下さい。

東京都医療連携手帳について



外科

講師 横溝 肇

昨年、当院は大腸がんの分野で「東京都がん診療連携協力病院」に認定されました。がん診療協力病院には「東京都医療連携手帳」を活用した地域のがん診療連携体制の充実をはかることが求められています。その重要なツールである「東京都医療連携手帳」についてご説明したいと思います。

この手帳は、がんに対して手術・治療を施行した病院とかかりつけ医が協力し、専門的な医療と総合的な診療をバランス良く提供する共同診療体制を構築することを目的に、東京都がん診療協議会・クリティカルパス部会で作成されました。この手帳の活用により癌に対し手術・治療を施行した病院の医師、かかりつけ医、その他の医療機関などが患者さんの治療経過を共有でき、それにより地域のがん患者さんに対する診療連携体制の充実が図れることが期待されます。患者さんにとっても、今後の診療予定を知ることが可能となり、

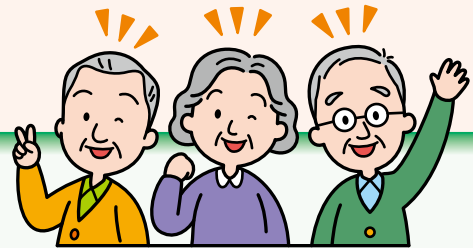
診療情報が共有されますので安心して医療機関での診療が受けられ、通院時間や待ち時間が短縮し負担が軽くなるといった利点があると考えられます。かかりつけの医療機関さんでは、手帳に書かれた治療計画に基づく診療をご提供いただき、がん診療協力病院に患者さんの診療に関する情報提供を文書により行っていただくのがん治療連携指導料（月1回に限る）が算定可能となります。

当院では、これまでも積極的に医療連携手帳を活用して大腸がん診療を行って参りました。今後も地域の大腸がん患者さんのためにこの手帳を十分に活用し、地域の医療機関さんとの更なる連携の充実を図っていきたく考えております。今後とも変わらぬご指導、ご協力を賜れば幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。



看護部だより5

患者様、ご家族から学ぶこと



在宅医療部

小笠原 保子

本院、在宅医療部での退院支援の業務を経て、H15年より現在の部署で、訪問看護に携わっています。

今回、当センター在宅医療部の設立と共に、歴史を重ねて来られた患者様をご紹介します。77歳G氏、病名ALS、奥様と2人暮らしです。在宅人工呼吸器を装着しての療養生活は21年目を迎えました。当時は、医療機器管理を行っての介護はイメージもつかない時代でしたから、退院後の生活は全てが手探り状態でした。奥様の定年迄の間、1人でも多くの人の手を借りたいと、奥様は何度も区役所に足を運び、その願いは行政をも動かしました。

奥様を支えているのは学生ボランティアです。医大生や看護学生、理学療法士、医療ソーシャルワーカー等を目指す学生達と共に現在に至っています。G氏の家で多くを学び巣立った学生達はすでに130名を超え、

増える医療器械に囲まれたベッドはその歴史を物語っています。

「元気な頃は温泉が好きでね。よく2人で出かけましたよ」その言葉は学生達の1つの目標になりました。1泊旅行は彼らが計画して参加費も各自持ちです。毎回15人程が参加します。学生の卒業イベントや春のお花見、巣立った彼らの結婚式等、外出する機会も増えました。「主人と私は学生達について行けばいいの。何よりも私が無理をしないことが、自宅での生活を長く続ける秘訣です」と奥様はおっしゃいます。

巣立つ卒業生達は後輩に託して、イベントは来年も続きます。「在宅医療を選んでよかった。主人が大好きな温泉にも毎年行けるし、息子や娘も増えました。社会人になっても、いつでも私達を気にかけてくれます。家に帰って来たからこそ出来る生活です」その言葉が心に残ります。

療養の場での業務に関われることは、家族のあり方や患者・家族との向き合い方、人と人との繋がりの大切さも学ばせてくれます。病院では得ることの出来ない業務に感謝し、これからも訪問看護を続けて参ります。

今年度入局して



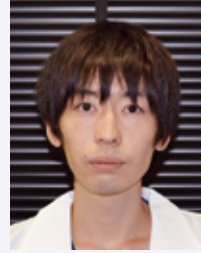
麻酔科

丸渕 貴仁

平成24年に鹿児島大学を卒業し、2年間千葉の病院で初期研修を修了したのち、今年度より当院麻酔科に入局させて頂きました。

当院の多岐に渡る手術に携わらせていただいております。また小森教授はじめ、ベテラン揃いの先生方に教えていただいております。とても充実した、楽しい生活を送らせて頂いております。

手術を受けられる患者さんに、より良い麻酔を提供出来る麻酔科医を目指し、精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程。よろしくお願い致します。



救急医療科

栗山 桂一

私は昨年まで横浜市にある二次救急指定病院で研修を受けておりました。

もともと集中治療に興味があり、都内で有数の症例数を誇りclosed ICUを擁する当科に入局いたしました。

救命センターは日々業務に忙殺されがちではありますが非常にやりがいのある部署であると考えております。また様々なcriticalな症例を経験させて頂き医師としての成長をしていきたいと考えております。

まだ医師として未熟ですが御指導、御鞭撻の程宜しくお願い致します。

紹介状ご持参のお願い並びに時間外選定療養費について

医事課

当院では、平成26年10月1日より、紹介状のご持参がない患者さんの初診時選定療養費が3,240円から5,400円に変更になりました。

近隣の先生方におかれましては、当院へ患者さんを紹介いただく際、病院にて作成した診療情報提供書をご持参のうえ、受診していただくようご協力お願いいたします。

また、平成26年12月1日（17時より）救急外来において「時間外選定療養費」（7,560円）を算定させて頂くことになりました。

二次救急医療機関として、緊急性の高い重症な患者さんを24時間体制で受け入れています。夜間・休日に多くの患者さんが来院しており、重症患者への対応に支障が生じています。

そこで、緊急性の高い重症な患者さんを最優先に対応するため、時間外の受診については、下記の要領にて、診療費とは別に時間外選定療養費の徴収をさせていただきます。

地域の救急医療を維持していくためのやむを得ない措置ですので、皆様のご理解をお願いいたしますとともに、適正な時間外受診に何卒ご協力のほどお願いいたします。

【次に該当する方は徴収対象外となります】

- 他院からの救急外来受診のための情報提供書（紹介状）をお持ちの方
- 当院で治療中の疾患において、病状増悪により時間外に受診の必要があった場合
- 当院で治療中の疾患において、注射・処置等のため救急外来を受診するように指示された場合
- 救急外来で受診後、そのまま入院（転院）となった場合
- 医師の診察の結果、緊急性があると判断された場合

地域連携室からのお知らせ

「第25回城東地区医療連携フォーラム開催のお知らせ」

日 時：平成27年2月7日（土）午後3時より

場 所：浅草ビューホテル

東京都台東区西浅草3-17-1

TEL 03-3847-1111

テーマ：「喫煙の脅威－胎児から高齢者まで－」

「第26回城東地区医療連携フォーラム開催のお知らせ」

日 時：平成27年7月11日（土）午後3時より（予定）

場 所：浅草ビューホテル（予定）

テーマ：（未 定）

皆様のご参加をお待ち申し上げます。

「連携担当医」制度のお知らせ

平成26年3月より開始いたしました。

【連携担当医】制度とは、病診連携の強化を目的とし、医療機関の先生からのお電話を直接診療科の医師へお繋ぎするシステムとなっております。これによりスムーズなご対応ができるようになりました。

連絡方法：代表03（3810）1111 オペレーターに

【〇〇科の【連携担当医】へ】とお伝え下さい。

対応時間：9：00～16：30（土曜日は12：00まで）

（第3土曜日、日曜日、祝祭日は従来通り当直医対応）

対応診療科：内科、小児科、精神科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科・呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科